

令和3年度第2回白井市市民活動推進委員会（審査会）会議録

1. 開催日時 令和3年5月28日（金）午後1時～午後4時40分
2. 開催場所 白井市役所 本庁舎2階 災害対策室2・3
3. 出席者 関口宏聡委員、清水洋行委員、大田茂子委員、
黒木弘司委員、篠崎慶子委員（名簿順）
4. 欠席者 湯浅章吾委員
5. 事務局 松岡課長、中原主査、高橋主事補
6. 傍聴者 なし
7. 議 事
 - （1）補助金審査の流れ〔非公開〕（資料1、2）
 - （2）プレゼンテーション〔※非公開〕（資料1、2）※感染防止対策のため
 - （3）補助金審査〔非公開〕

8. 会議概要

（1）補助金審査の流れ〔非公開〕

（理由）白井市情報公開条例第9条第1項第5号に該当するため。

（2）プレゼンテーション〔※非公開〕（資料1、2）

※感染防止対策のための非公開であったため、議事録は公開とする。

〔事務局〕 ただいまより、令和3年度白井市市民活動支援補助金の審査に係るプレゼンテーションを開始したいと思います。

1団体目は、グリーンレンジャーさんです。本日は〇〇様、〇〇様、〇〇様、3名に来ていただいております。

それでは、グリーンレンジャーさんにつきましては、事業名が南山公園、国道464号線沿道の葛等除去事業ということで発表させていただきます。

〔発表者〕 ただいま御紹介いただきましたけれども、南山公園、国道464号線沿道の葛等の除去事業、それがグリーンレンジャーでございます。

今日は、会長の〇〇、それから〇〇、それから私〇〇ですけれども、参加しておりますので、よろしくお願いいたします。

こちらの葛ですね。非常に美しい花で古代からめでられてきました。この葛を除去しようではないかということで、その始まりなのですけれども、実は我々、火曜日の夕方、皆さんで集会場に集まって、酒を飲んだりしながらダーツを楽しむのですけれども、そのときに、去年の秋なのですけれども、この〇〇会長が、これまで外来種であるヒメジオンとハルジオン、これですね。これを公園を散歩しながら抜いていたというのがありま

す。話がだんだん葛に及びました。ちなみに、ヒメジオン、ハルジオンについては、昭和天皇も皇居の中で散歩中に、ヒメジオンなんかを抜かれていたという話です。それにならってやっていたわけですがけれども、しかし、本当に抜いていいのだろうかとなりました。

なぜかという、これは山上憶良、万葉集なのですけれども、この中でも、秋の七草に葛の花というのが入っている。このように非常に親しまれているのではないかと。あるいは、応神天皇ですね。これは古事記の中に、応神天皇は八幡様といわれているようですけれども、山の上から葛が広がる平野を見ると非常に満ち足りた住居も見えるし、すばらしい国だなということが詠まれているわけです。いうならば、葛は豊かさの象徴だったということがありますね。

さらに、明治38年に生まれた「下総国旧事考」ということなのですけれども、これを読みますと、ちょっと長いのですけれども、先ほどの応神天皇の歌を示した後に、長いので下の2行だけですが、千葉葛飾両郡ともとりわけ原野多く、葛、藤の繁茂するよりおはせしなるべしということで、やはり千葉という名前も、葛飾という名前も、どうも葛にちなんでいる。しかも、先ほど言いましたように、豊かさの象徴のような意味で使われているということだと。

さらに、葛自身が非常によく利用されているのではないかと。葛切りなどの食べるものもあるし、葛根湯のような薬用も使われる。最近では、バイオマスエタノール、これは内燃燃料機関にも使われていると。

こんな葛なわけですから、本当にやっていいのだろうかというのですけれども、実はどうも印旛地方の俗語として、これは印西市の造園業者から、このあたりでは、やぶ殺しと言っているよと、こういう話も聞きました。さらに、アメリカなのですけれども、日本から1876年、園芸植物として輸入されたのですけれども、最近では侵略的外来種といわれている。緑の砂漠、あるいは南部を食べたつと、こうまで言われていると。さらに経済被害とすると、日本では500億円、アメリカでは年間、除草だけで3.6億ドル、400億ですね、こうなっていると。また、御存じのとおり、桜の中を走る北総線、大変美しい。国道464の桜並木、これもなかなかだねと。だけど、よく見ると、こういうふうに桜に葛が絡みついたりしている。あるいは、場合によっては桜を枯らしたりもする、こういう状況もあります。

これは南山公園、あるいは法目川防災調整池、並べて書いていますけれども、ここについて、これも水面と木立が一体になって非常にきれいな景観をやっている。しかし、これもよく見ると、左の写真などだと、木の上をずっと覆っています。あるいは葛がいっぱいある。さらに笹竹ですね。これは当時はなかったのですけれども、これが覆ってきて、それで景観を壊している。それがあるので、葛を払おうではないかとなりました。

ちなみに、この〇〇さんは、自腹で刈払い機を買ったりしている。実施前が上ですけ

れども、実施後には下のようになって、非常にきれいになると。あるいは、左のようなのが右のようになっている、こんな状況です。問題は葛の根です。こんなに大きいのがあります。これがなかなか取れないので、これは、Kピンという薬剤を使って枯らそうではないかとなっています。

課題は、この四つかと思っています。上の三つですね。立ち入りの承認、保険、ごみの回収。これは、千葉県のアダプトプログラムでということで協議中です。機材の充実が残っているので、これについては、この補助金でよろしくお願ひしたいなど。こういうメンバーですけれども、よろしくということでございます。

[委員長] どうもありがとうございました。本当にコロナの中、今日もプレゼンテーション御参加いただきましてありがとうございます。

そうしましたら、この後、委員から質問していきますので、御回答のほうをお願いします。

それでは、質問のある委員、よろしくお願いします。挙手してください。

どうぞ、〇〇さん。

[委員] 御苦労さまです。こちらの資料を見ますと、今年度の活動地域範囲、それが表の地図の上では、7、8、9、10あたりで、この辺は、この報告書によると、葛というよりも笹竹が多い。水面に繁茂しているというふうにならずと書かれていますのでけれども、これを今回、どういう計画で活動されるのかを説明ください。

[委員長] この点、お願いできますか。

[発表者] 今、図面を出していますけれども、北側は葛が多かったので、これは前年度にかなりやりました。今年度は、その葛をさらに新しく出てきたのを刈るというのがありますし、あるいは、今お話あったように、南側の、いうならば右岸、こちら側ですね。そちらに笹竹が多いので、それについてもやりたいなという状況ですね。どちらもやりたい。

[委員長] 〇〇さん。もう一個だけ。

[委員] 笹竹に対しては、まだその材料というか計画はないということですか。取りあえず、今、葛に対するものはあるけれども、活動地域に対して、範囲は書いてあるのですけれども、今年度内容が。

[委員長] まず、回答してください。

[発表者] 笹竹については、基本的に草刈機で刈るようにしたい。それ以上、何かあるでしょうか。何かあれでしたら。

[委員長] すみません、ほかの委員もいるので。ほかの方どうぞ。

〇〇さん、どうぞ。

[委員] 〇〇といます。二つあるのですけれども、一つ目が、作業されているときの服装を教えてほしいということと、もう一つは、こういうのを取ったほうがいいかな

と思われたときに、どうして自分たちで取ろうと思われたのかなというところなのです。例えば、本来であれば、管理しているところがあるのだから、そこへまず言いに行くべきではないかなと考えたりすることもあると思うのですが、自分たちで始めようと思った動機というか、考えというのを教えてください。

[委員長] はい、お願いします。

[発表者] まず作業の服装です。こんな感じですよ。御覧のとおりです。

[委員] ユニフォームとかではない。

[発表者] ユニフォームではなくて、皆が勝手な作業服なり、Tシャツなりで来ています。

それから、何でもかですけれども、これ実は管理区分です。ちょっと見づらいのですけども、一番外側が公園です。その内側は河川区域になっています。河川区域については県が管理、公園区域は市が管理。ただし、河川区域のうち上流側、一番南側ですけども、ここの部分は、水生園として利用されていたことあるかと思えますけれども、そのせいか市が管理するようにしています。それで、なおかつ、これ管理の境界を示していますけれども、例えば、これは非常に分かりやすいところです。ここに柵があって、こちらが公園で市が管理しています。こちらが公園です。市のほうは全部刈っています。こちら側は5メートルぐらいで大体幅刈りしています。だから、幅刈りのこちら側は、もう全然だめです。葛があったり、笹があったり。ここも同じですね。ツツジの内側が県が管理で、これについては管理されていない。したがって、その部分を何とか景観を保つために草刈りしたいなというのが発端ですね。

[委員長] よろしいですかね。

[委員] はい、ありがとうございました。

[委員長] ほかの方。

〇〇さん、どうぞ。

[委員] 市民が景観を保つためにという考えは、とてもすばらしいなと思いました。ただ、これもう始めていらっしゃるに当たり、ダーツ仲間でやったということは、誰もそういう経験がない方々が始めたということによろしいですか。

[委員長] マイクを使ってください、申し訳ない。

[発表者] 経験もなしに、そういう思いだけで始めたというところです。

[委員長] 〇〇さん。

[委員] 経験がないというお話だったのですけれども、経験がない方々が始めたにしたら、保険とかは入っていらっしゃるなくて、そのあたりの事故とかの管理については、どう考えていらっしゃるのでしょうか。

[発表者] 千葉県の方に河川海岸アダプトプログラムというのがありますので、その中で活動に対して保険を適用するという制度がありますので、それについて、現在協

議中です。

[委員長] よろしいですか。

はい、どうぞ。

[発表者] 経験ないと申しあげましたけれども、実際には、こちらの〇〇さんが、例えば草の除去だとか、園芸の木の剪定だとか、そういう講習に行って、我々と情報は共有していただいているということなのです。

[委員長] ありがとうございます。

最後かな。〇〇さん、ありますか。

[委員] 千葉大学の〇〇と申します。今日はありがとうございました。

グリーンレンジャーさんの活動は、一つは、自分たちのまちの意識を高めるツールというか、そういうものにもなりますし、それから問題提起、アドボケイトというか、そういうものを活動を通じて実際にやってみせるという意義はあるなと思って伺っていました。

先ほどの質問と少しつながるのですけれども、みんな地元で仲のよい仲間なのかなと思うのですけれども、例えば自治会さんとか、何かフォーマルな団体とのつながりというのもできたりとか、あったりとか、これから作っていこうという、そういう御意向はございますでしょうか。

[発表者] 今、御指摘があったように、自分たちのまちを、出来上がったものをそこに住むだけではなくて、これから作っていこうという考え方ですね。そういう意味で行っています。ですから、すみません、オーバーしましたけれども、我々の活動を見て参加される方が増えていけば、幾つかに分派したり、いろいろしながら、そういう活動が広がっていくことを希望しています。

[委員長] どうもありがとうございました。お時間となりましたので、プレゼンテーションのほうは以上とさせていただきます。採択されれば一番いいのですけれども、採択されなくても、ぜひ安全に気をつけて頑張っていただければと思います。ありがとうございました。

[事務局] それでは、2番目の団体は、介護・認知症の家族と歩む会・白井の方々です。事業名は、認知症本人と介護家族を支えるまちづくりとなっております。本日は〇〇さん、〇〇さん、2名で御参加いただいております。

[発表者] 介護・認知症の家族と歩む会〇〇です。よろしくお願ひします。

私どものテーマ、活動は、認知症って病気です。病気って、どんな病気なのと。難しい話ではなしに、認知症の本人は、自分が少しずつ変わってきた、もしくは名前が思い出せない、隣にいる人の顔が思い出せないというような不安に襲われているのですけれども、もっと力を入れたいのは、家族の方が、認知症って病気だということを忘れてしまっている。極端にいうと、病気ですから、AさんとBさんは出てくる症状が違うはず

なのです。個人差が大きいのです。それは、大きな理由は、育ってきた環境が違うから。もしくは、今の家族関係が絡んでいると。

難しい話を今年から変えました。極端にいうと、ふだん使っていた道具が使えなくなる。パソコンが使えなくなってきた。携帯が使えなくなった。テレビのリモコンのやり方が分からなくなってきたというようなことがどんどん増えてきます。それを見ていた家族が何とも思わなくなっていて、ふだん一緒にいるから、自分のお父さん、奥さん、御主人だという安心感があるので、そのつもりで声を掛けてしまう。ところが当人は、周りにはいる人が誰だかだんだん分からなくなっている。極端に言えば、後ろから知らない人が声を掛けたら、びっくりします。それが、家族の方は、何で返事がないのと。極端に言えば、お父さん、今日、お昼何が食べたいと普通に聞くと、ところが、それが答えられたら認知症じゃないよという説明をしています。もしくは、爪切りがあって、爪を切ることに使えるということが分からなくなってくる。

特に女性の場合、今、気をつけてもらいたいのが、包丁を切ったら、手が切れたら危ないということさえ忘れてしまう。それから水道の蛇口を出しっぱなし。閉めたら止まるということを忘れてしまっている。それを周りの人は分かったはずなのですけれども。

先日、25日もここで講座をやりました。お母さん、眼鏡を置きましたよと言って、目の前に置いたけれども、分からないのだと。それは、眼鏡とは何だか分かっていないから。そこに置きましたよと大きい声を出したら、お母さんが怒りだしたという。こういうこと。

優しい言葉で、優しい道具で。例えば、右腕って、右腕が分かっている人は認知症では少ないです。それから、10時にデイサービスが迎えに来るわよ。10時っていう時間が分かっていたら、認知症ではないです。デイサービスって何。一番多いのが、今、トイレというのが分からないんです。言葉としては知っていても。そういうことを今おしゃべりさせていただいています。

分かってほしいのは、家族が掛けている言葉って、実は認知症の人を脅迫しているに近い。いつも思っているのですけれども、このボールをぱっと投げると、その人がしっかりつかもうとしたら、痛いのです。これが家族の使っている言葉です。私たちは、これを目の前で笑顔で、お母さんこうしようと言って渡してくれたら、自分の味方だと分かってくれたら、笑顔が続くんじゃないかということを今、やらせていただいています。

おかげで、理解してくれる方が増えて、私たちが言うのと同じようなことを参加してくれた方が、周りの人に声を掛けてくれます。そうすると、お手伝いしてもらっているのと一緒です。今年も既に2人、お手伝いしますと手を挙げてくれています。今年目標は5人としたのですけれども、何とか達成できるよねという話をしています。

ですから、分かっていたきたいのですけれども、認知症は家族が変えているということ。それしかないと訴えています。

[委員長] ありがとうございます。

それでは、委員のほうから質問させていただきますので、お答えのほう、よろしくお願いたします。

質問のある方、挙手をお願いします。

〇〇さん、どうぞ。

[委員] 〇〇と申します。一つお伺いしたいのですが、出された書類の中の会則の部分なのですが、第5条の会員について、世話人という言葉と賛同する家族、支援会員という言葉があるのですが、会員と世話人はイコールなのでしょうか。

[委員長] お願いします。

[発表者] 私どもは、会員制はとっていません。なぜかという、専門者が集まると、一般の人と隔離してしまう。お節介のおじさん、お婆さんという形で世話人という形にしています。この人たちから会費も取っていません。いろいろなお手伝いをしてもらう。その人が集めた情報を持ってきてもらうという形でやらせていただいています。

きれいごとでいうと、おかしいのですけれども、ある大きい命題をぼんと出して、みんなでそれに向かおうとすると、それ以外の人は離れちゃうということがあるので、私どもは、全部世話人。もしくは、支えてくれる会員というのはいます。年間1,000円だけ。入会で全てで1,000円だということにしていますけれども、その辺の違いです。

[委員長] では、最後。

[委員] 同じく第7条の経費のところ、会員及び個人支援会員は年会費1,000円となっていて、ここには会員という名前が出てきているのですよね。

[発表者] それは、我々の活動に関心がありますと。それで、応援しますという1,000円頂いているのが支援会員。だから、グループもあります。それも全く違う世界です。農業をやっている人だとか、いろいろな分野の人が応援するよと。何でそんなことをやるかという、認知症の方が、お手伝いで畑に行つて何かをやったりするので、そういうふうに分けています。だから私なんていうのは、いつも認知症の当事者と隣にいるという形を取っていますので、会員というのとは特別作っていません。

[委員長] 取りあえず、そこで区切らせていただいて。

次、〇〇さん、どうぞ。

[委員] 重要なテーマで活動されていると思うのですが、収支予算計画書を見ますと、活動全体が14万5,000円のうち、約4万円、広告費ということになっておりますよね。資料では広告掲載紙が東葛毎日新聞発行の「東葛まいにち」となっていますが、白井市は配布エリアではありません。東葛毎日新聞発行の「ふれあい毎日」あれば白井市が配布エリアです。ただし、白井市を含む13市町村で6万部配布です。白井市民対象としてこのような広告を考えておられるのでしょうか。

[発表者] 白井市については、別のことをやることにしました。まず東京新聞が時々

書くよと。それと、千葉ニュータウン何とかというのは、取りあえず特集を7、8、9とやる。それ以降は、2月に一回、何らかの形で、どこどこで何をやりますということ、まだ値段は決まっていませんけれども、やってくれるということになりました。

[委員] 分かりました。変更になったということで。ありがとうございます。

[委員長] ほかの方はどうでしょう。

〇〇さん、どうぞ。

[委員] 〇〇と申します、よろしくお願いします。この団体さんの認知症発症以前に近い穏やかな日常生活を取り戻すという目的のために、御家族の方に認知症というのをもっと知ってもらいたいのだと、こうなんだということやそういう活動をされているということで、前回、市民活動の支援を受けていると思うのですけれども、そのときにも指摘があったと思うのですけれども、そういった認知症の方の情報というのは、地域包括支援センターとかというところが一番よく知っていると思うのですね。そういうところとの連携をしたらどうですかというコメントがあったのですが、そちらについては、今どのように対応されているのでしょうか。

[発表者] ちょっとお叱りを受けるかも分かりませんが、地域包括さんは、どちらかというとい介護するほうの立場に立つことが多いのです。助けてほしいというときに受け止める方が少ない。だから、地域包括さんが私どもに御相談はたくさん来ています。そのように一緒に活動はしています。ただ、事業所があったりしますので、プラスマイナスの部分はあるのですけれども、地域包括さんとは連携は取っています。

[委員長] よろしいですか。

〇〇さん、どうぞ。

[委員] 事業計画書の実施体制のところ、協力団体、協力者が幾つか書かれていますけれども、千葉県福祉ふれあいプラザさんとか、介護福祉士さんとか、この方たちは、今回の事業にどのように関わるのでしょうか。教えていただければと思います。

[発表者] 既に白井でも、認知症のバーチャル体験をやってもらったり、情報提供してもらったりやっています。そのほかに、先ほどちょっとお話ししましたけれども、子育てだとか、障害者とか、地域づくりとかいうところと連携という言い方はおかしいですけれども、一緒にイベントをやったりしています。

[委員長] よろしいですかね。

そうしましたら、時間となりましたので、以上とさせていただきます。本当にコロナの中、お忙しい中、御参加いただきましてありがとうございました。

[委員長] それでは、3番目の団体は、しろいワクワクひろばさんになります。多世代交流型、子ども農園&子ども食堂事業を行っております。本日は〇〇さん、〇〇さん、2名御参加です。

[発表者] では、しろいワクワクひろばの多世代交流型子ども農園&子ども食堂事業

について、御説明させていただきます。よろしくお願ひいたします。

初めに、私たちの活動地域ですが、白井第一小学校区内を中心としておりまして、子ども農園については、高齢者施設白井の家に近い場所にある畑で行っております。子ども食堂については、感染症拡大の影響により、参加者同士の会食は少し控えて、障害者施設ぽけっとさんの調理室をお借りして作ったお弁当や、社会福祉協議会さんから寄附していただいたお米やお菓子などの配布を行っております。

活動内容は、月1回、土日または祝日の午前11時から正午ごろまで畑で作業を行い、その後、食材でお菓子、お弁当などを配布しています。子ども農園&子ども食堂という名称で事業を実施していますが、対象は、市内にお住まいのお子さんから高齢者の方まで、どなたでも御参加いただいています。

令和2年度は、コロナ禍による活動自粛の時期もありましたが、感染対策をしながらほぼ月に1回活動を行いました。7月のジャガイモ掘りや11月のサツマイモ掘り、12月のサトイモ掘りには、たくさんの方々の参加がありました。

昨年度の活動状況について撮影したものがございますので、御覧ください。こちらは、昨年9月の落花生掘りの場面です。こちらは、昨年12月のさといも掘りと、畑での花植えの場面です。こちらは、昨年12月のサトイモ掘りのときに、市の保健師さんの御指導のもと、参加者の皆さんで、なし坊体操を行っているところです。

このような活動を始めたきっかけは、少子高齢化や核家族化などによる地域の様々な課題があると感じたからです。白井第一小学校区は、在来地区ということで、3世代の同居世帯も少なくありませんが、一方で、外国籍の方も含めて、若い子育て世帯や独り親家庭の方たちが、近くに親族や知人がいなくて地域から孤立しがちになり、育児の不安から虐待に至ってしまうような場合もあります。また、独り暮らしの御高齢者や、御高齢者の御夫婦のみの世帯も増えてきていて、高齢者の方は、年々、心身の機能低下とともに家に閉じこもりがちとなって、孤独死や老老介護などの問題が起こってくる可能性があります。

私たちは、事業を通じて、地域で生活する様々な年代の人たち、様々な国の人たちが、お互いに知り合い交流を深めて、そのような問題を少しでも減らしていければと考えています。私たちの事業は、そのための関わりのきっかけづくりであり、定期的で継続的な活動を通じた交流により、子供たちや若者の健やかな育ちを見守り、若い子育て世代を応援し、また高齢者の閉じこもり予防を図っていきたくと思っています。

地域の様々な人との関わりを通じて、子供たちには自信や意欲を、若いパパ、ママには一人で頑張りすぎないように子育ての孤立防止を、高齢者の方には、子供たちや若者との触れ合いで元気や生きがいを、そして活動している会員のママたちは、若さと健康を保っていけるよう、今年度も事業を継続して実施していきたくと思っています。

こちらは、令和3年度の事業予定で、毎月1回の子ども農園と子ども食堂を実施して

いく予定です。会員の構成と協力体制については、昨年度と同様に、会員を中心としまして、市役所や自治会、社会福祉協議会さん、障害者施設ぽけっとさん、地域の方々やボランティアさんなど、たくさんの方々の御理解、御協力を得て、楽しみながら実施していきたいと思います。

私たちの事業は、白井市が目指している将来像「ときめきとみどりあふれる快活都市」を実現するための三つのプロジェクトのいずれにも該当するのではないかと考えています。このような私たちの事業を継続して実施していくに当たり、おいもや野菜、お花の苗や肥料代、食材の費用などに市民団体活動支援補助金を活用していきたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。以上となります。

[委員長] あと30秒ありますけど、何か言いたいことがあれば、言ってください。

[発表者] 昨年度ですが、外国の方の御参加もあったり、本当に小さいお子さん、小学校上がる前のお子さんから御高齢者の方まで、たくさんの方に御参加いただきました。御高齢者の方にとっては、小さいお子さんとの触れ合いがすごく励みになって、畑の作業も生き生きとやられていたり、お子さんにとっても、地域の方との触れ合いで意欲、自信といったものが身についたかなと思います。以上です。

[委員長] どうもありがとうございました。

それでは、委員のほうから質問をしていただきますので、回答のほう、よろしく願いします。

それでは、質問ある方、挙手をお願いします。

〇〇さん、どうぞ。

[委員] 〇〇と申します。とてもいい事業だと、私はとても思っておりまして、聞きたいなと思っていた外国人の方の参加とかも今お答えいただいて。前回に比べて、今回、発展型ということで、何人ぐらい、どのぐらいの年代の方が増えたとかいう統計とかは出ていますか。

[委員長] お願いします。もしあれば。

[発表者] 特に統計は取っていないのですが、本当に小さいお子さんでは、1、2歳ぐらいのお子さんから、小学生、中学生、高校生のお子さんや、それから御高齢の方は、主にボランティアさんとして農作業のほうで御参加いただいている状況となっております。外国の方も、中国人の方ですとか、スリランカ国籍の方など、いろいろな国籍の方が御参加くださっている状況で、農作業や食事、食事会はできていないのですが、お弁当を持ち帰って食べていただくということで楽しんでいただいている状況かなと思います。

[委員長] いいですかね。

そのほかの方、どうでしょう。

では先に、〇〇さん、どうぞ。

[委員] ○○と申します。今の質問と重なるところもあるのですが、活動促進型から活動発展型にされて、2回目ということで。今回、活動発展型ということで、これまでの強みを一層伸ばそうとしているところとか、あるいは、これまで課題だと思っていたところで、今年はこれをやりたいと思っている、どこの部分を発展させていこう、特にどんなところを伸ばしていこうと考えていらっしゃるか、教えていただけたらと思います。

[発表者] 大体、月に1回この活動を行っていて、1回参加された方は2回、3回ということで御参加いただいております。まだこの事業を御存じない方も大勢いらっしゃるので、たくさんの方に知っていただいて、御参加いただけるようになると思います。ただ、感染対策もあるので、参加いただける人数は限られてしまうので、そのあたりを開催回数を増やすのかどうするのかは、また検討課題かなと思っています。

[委員] 分かりました。

[委員長] よろしいですか。

次、○○さん、手を挙げていらっしゃいましたから。

[委員] 御苦労さまです。参加の形なのですが、子供さんがいらっしゃるということは、やはり家族単位が多いのでしょうか。どれぐらい、どんな感じなのでしょう。

[発表者] 御参加は、一応小学校4年生以上のお子さんでしたら、お子さんだけで参加可能とさせていただいてまして、お友達同士とかの御参加、御兄弟での御参加も可能なのですが、親子でお父さん、お母さん、お子さん、三、四人という形で御参加いただく方もいらっしゃれば、御近所のおばさんと小学生のお子さんというような形で御参加いただいている方もおいでです。

[委員長] よろしいですか。

○○さん。

[委員] ○○といいます。よろしくお願ひします。しろいワクワクひろばさんは、何回か支援を受けていると思うのですが、2回目以降は、多分発展型ということで、より事業を広げて行ってほしいなと思っていたのですが、実際に広がってきているかどうかというところがよく分からないのですよ。

例えば、去年の状況を見ると、8人から二十数名参加していますよという実績は分かるのですが、大体、重複しない参加者の方というのは、事業が始まってからどんな形で増えてきているのか、増えてきていないのかというところを教えてください。

[発表者] 繰り返し参加されている方もいらっしゃれば、初めて参加という方もおいでです。どんどん多くの方に知っていただいて、たくさんの方に事業に参加してもらって、この活動がより発展していけばいいなとは思っております。答えになっていないで

すかね。

[発表者] あと、今年度に入ってから、私の携帯に、担当〇〇になっていますので、問い合わせは三、四件あります。高齢者の方お一人様とか、あと富士地区の母子家庭の方とか、そんな感じでおります。

[委員長] 〇〇さん、いいですか。

[委員] はい。

[委員長] 残り1分ということで。ほかの御質問ある方いらっしゃいますか。

どうぞ、補足ありますか。

[発表者] 今まで周知の方法について、児童館や公民館などにチラシを配布する形が主だったのですけれども、今後、市内の小中学校全てですとか、保育園さん、幼稚園さんなどにもチラシを掲示していただいて、より周知を強化していきたいなと思います。SNSの活用なども検討をしているのですが、まだその辺のところは不得手なもので、得意な人に教えていただきながら、今後も検討していきたいなと思っております。

[委員長] 〇〇さん、何か。

[委員] 活動発展、活動を始めて2年たったのですけれども、団体の活動から組織づくりをもう少し見据えていく時期かと思うのですけれども、コアメンバーがそろってきたとか、そこら辺の例えば今後、組織づくりについて、この辺を強化しようとか、何か考えていることがありましたら教えてください。

[発表者] 組織づくりについては、まだ今のところは、当初のメンバーで継続的に実施していくことをまず中心にしていきたいなと思っております。まだ組織を固めていくというところまでできていない状況ですが、今後、そちらについても考えていければなと思っております。また、御指導等いただければなと思います。ありがとうございます。

[委員長] そうでしたら、ありがとうございます。時間になりましたので、これにてプレゼンテーションは終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

[事務局] それでは、4番目の団体さんは、白井健康元気村さんです。事業につきましては、高齢者の健康寿命・元気寿命延伸のための教室の解説及び広報の実施となっております。本日は〇〇さん、〇〇さん、2名御参加いただいております。

[事務局] それでは、発表のほう、よろしく願いいたします。

[発表者] では、よろしく願いします。白井健康元気村のいわゆる村長にさせてもらっております〇〇です。よろしく。リタイア後のフリーな生き方が可能な第二の人生、いわゆる人生の2時限目、これをいかに有意義に、しかも楽しく過ごすか、そして、この世をスマートにおさらばできたらなど、誰しもちょっと頭をよぎる課題でありましょう。

我々のグループは、心身ともに健全な状態を最後まで維持する努力により、ピンピンコロリとあの世に行けたらなと願うグループでございます。体を健康に保つことはもと

より、気力を充実させ、元気はつらつと最後まで生きたいというのが、白井健康元気村、村民共通のコンセプトであります。

具体的には、単に介護不要の健康寿命の維持だけでなく、積極的に社会との関わりを求め、WHO、世界保健機構の健康定義であります体健康、心健康、家庭健康、社会健康、この維持に努め、ピンピンコロリを願うグループです。村民は約30名でございます。

体健康を保つための健康管理能力を啓発するために、健康教室を開催しております。心健康を保つため、生きがいと共生心、共に生きる心を涵養するため、レクリエーション、共同事業、旅行等を実施しております。家庭健康を保つため、生活設計立案能力を得るため、終活教室、これを開催しております。社会健康、特に健全な老人社会を保つため、白井健康元気村の活動をブログ、DVD等により発信し、啓蒙に努めております。

具体的活動を紹介いたしますと、健康教室では、家庭でできるPPKマニュアル、薬・薬剤師との付き合い方、血管及び血液の健康維持について、ロコモティブシンドローム対策について、がんとの闘い方について、咬合、かみ合わせですね。こういうことが大切だと、そういう項目をそれぞれお医者さんに講演をしていただいております。

レクリエーションでは、パターゴルフ大会、バーベキュー、旅行等をやっております。

共同事業としては、農業クラブの運営、これは一反ほどやっております。それから児童公園の清掃事業。これも6か所の清掃をやっております。

それから終活教室においては、お墓、葬儀についての講義、それから遺言、相続、それから老人ホームの見学等をやっております。

基本的活動として重視しております健康教室、終活教室の充実を図るために、適切な講師への依頼が必要であります。また、多数の市民の方の参加を募るには、適切な会場の設定が必要です。その費用の援助をお願いするものであります。我々、健康元気村の対象事業としては、この健康教室、終活教室であります。特に、新型コロナ感染拡大化における教室開催は、入場者数を50名程度、文化会館中講堂の2分の1に制限せざるを得ず、その内容を広く広報するために、DVDを作成、配布いたしたく、活動発展型補助金をお願いしている次第であります。

一昨年の活動の状況を見ていただきたいと思っております。

ほとんど説明なしで送らせていただきます。ただ、この第1回ロコモ、これが我々、ロコモの大切さに注目するものだったのですが、なかなかロコモが浸透しないということで。

[委員長] すみません、ちょっとお時間になってしまったので。また、もし質疑の中で補足で説明できれば、後で進めていただいても構いませんので。

それでは、この後、委員から質問させていただきますので、御回答をお願いします。

質問ある委員、挙手をお願いします。

〇〇さん、どうぞ。

[委員] ○○と申します。健康講演会とかの今、途中まで見せていただいた画像なのですけれども、これは、コロナの頃に行ったものではないのですか、もっと前のものですか。

[発表者] 先ほど説明の中で言いましたとおり、一昨年やったものです。去年は遠慮して、やりませんでした。今年は、ワクチンも打つであろうから、50名ぐらいに、中講堂を半分ぐらいに制限してやる。その代わりにDVDで配布、100部ぐらい作ってやると。そのために、発展型になるお金がたくさんいるということでございます。

[委員長] よろしいですか。ほかの方。

○○さん、どうぞ。

[委員] ○○といいます。二つあって、一つ目は、頂いたこの資料を見ると、結構、誤字とか、漏れているところとかがあったりするのですけれども、この支援に対する意気込みがどんなものなのか、支援を獲得しようという意気込みがどうなのかなというのが一つと。

あともう一つ、事業内容のところを見せていただくと、健康教室とか終活教室、DVD、ブログというのをメインに書かれていたのですが、これらは、みんな講師の方に依頼したりとか、作成を誰かにやっていただいたりということですが、この白井元気村の方々が、自分たちのこの活動に、自分たちが主体となって関わっているものというのとは何かあるのでしょうか。

[発表者] 先ほど説明させていただいたように、あれだけのたくさんの活動をしております。例えば農業クラブも、我々だけではなくて、ほかの人がいっぱい来ています。そういうほかのことをやっておりますが、メインになるのが健康教室と終活教室。これは知識としてやらなければいけないので、素人にはできませんから、健康教室はそれぞれお医者さんとか薬剤師の方。千葉白井病院の先生が4人ぐらいやってくれております。それから薬剤師の人。それから終活教室では、そういう専門の方を呼んでやらせていただくと。その開催するに当たっては、我々がパンフレットを配ったりいろいろして、一昨年では、大体70名から100名ぐらいの人が聞いてくれたと。そういう下支えの仕事はやりますが、その講義は専門家にやってもらいます。

それから、誤字があったというのは失礼しました。年寄りなものですから、そういうのがあったかも分かりませんが、非常に熱意を持ってやっております。

[委員長] よろしいですか。○○さん、大丈夫ですか。

ほかの方。

○○さん、どうぞ。

[委員] ○○と申します。今回の申請事業の大きなところを占めているDVDの作成のところ、具体的にはどんなふうにするのか。どういうふうに撮影してとか、そこら辺の見通しというのは、どのように考えていらっしゃるのか教えていただければと思います。

ます。

[発表者] DVDについては、講師の先生が、やってくれる先生が非常にまじめでしっかりして、プロジェクトを全部作って、後で見たら分かると思うのですが、それを我々に頂きたいということで、一応、了承を得ております。それを専門家の人たちに、1本350円ですか、それで作っていただくというように仮契約をしております。

[委員] そのDVDで映っている内容というのは、パワーポイントの資料というか、当日の資料をDVDに焼いて配布したりという。

[発表者] そうです。皆さん、事前にきちっと作ってくれております。最初にやる、7月にやる薬剤師及び薬との付き合い方などというのも、もう既にできております。それで、こういうようになるよというのを、私たち頂いております。

[委員] ありがとうございます。

[委員長] 私から、追加の確認なのですが、本当にパワーポイントの資料を焼くということなのですか。動画ということなのではないですか。動画ではなくて。

[発表者] 動画は、講演ですから、お医者さんが、あまり口が滑って言ってはいけない、ある薬の、これは使わんほうがいいよ、それ飲まないほうがいいですよとか、こういうことを言う失敗がありますので、それはきちっとパワーポイントにして、自分でこれならいいとチェックしたのをやってくれるということです。現場でやっているのをやると、やはり問題があるので、それはやらないでくれという話。

[委員長] 分かりました。

〇〇さん、御質問あります。いいですか。

[委員] この制作された1回につき100部のDVDは、無料で配布されますか。

[発表者] 無料にしようと思えます。しかし、これが出なければ、100円か200円頂こうかなど。補助金が出るようであれば。我々は、ほかに児童公園の清掃で33万ほど年間稼いでおりますので、そういうのも。だから、健康元気村は全事業は70万ぐらいです。その中の対象事業が47万ぐらいになっていて、その中の25万をお願いしたいと、こういうことです。

[委員] 先着順か何かで頂けるのですか。

[発表者] 先着順ということで考えています。50名ということで。

[委員] ありがとうございます。

[委員長] まだ最後、時間があるので、もう一個だけ私のほうから確認させていただきたいのですが、今のお話だと、全体の事業規模が70万円というお話だったので、頂いている収支報告書からすると、そこまでのような気もする、先ほどの話でも。

[発表者] 今年度がですよ。過去のあれでなくて、今年度です。

[委員長] 昨年度の収支決算と事業報告は、提出いただいているもので相違ないという理解でいいですか。

[発表者] はい、そうです。

[委員長] はい、分かりました。

それでは、時間となりましたので、これにて終了させていただきます。どうもありがとうございました。

(3) 補助金審査 [非公開]

(理由) 白井市情報公開条例第9条第1項第5号に該当するため。